

北海道 みなとまち紀行

苫小牧編

第3号

■苫小牧編

今回のみなとまち訪問は、戦前は王子製紙の城下町として発展し、戦後は不毛の勇払原野を掘り込んで港をつくり工業を発展させ、さらに掘り上げた土で湿地を埋め計画的な都市づくりを実践した苫小牧です。下記の写真は、苫小牧市内で最も眺望がきくグランドホテルニュー王子のレストランから見た現在の苫小牧市街です。折よく、大洗港からの商船三井フェリー《さんふらわあ》が入港してきました。遠望ですが、白い船体に太陽のマークが鮮やかです。海の街ならではの風景です。

札幌から特急北斗に乗り千歳を過ぎたあたりから視界が開け、帯のように低く広がる山体の真ん中に黒い溶岩ドームを戴いた樽前山が見えてきます。山の高さは1,041m。「樽前」の名前の由来はアイヌ語の「タオロマイ」で、川岸の高い所を意味するそうです。地元では「たるまいさん」「たるまいざん」と呼んでいたようですが、「樽前」の字があたりて現在では「たるまえさん」と呼ばれるようになりました。昔から幾度も噴火を繰り返している活火山で、遠く十勝やオホーツク海沿岸まで灰を降らせたこともあります。



王子製紙(株)苫小牧工場(上)と

グランドホテルニュー王子(右)



そのすぐ北に位置する支笏湖は、「支笏湖ブルー」といわれる透明度の高い水を湛える湖で、その水量は琵琶湖に次ぐ豊かさです。そこに源を発する千歳川の落差に着目した王子製紙の幹部は、工場で使用する電力を供給する水力発電所を建設する決心をします。そして、新たに苫小牧に進出し、当時東洋一といわれた製紙工場を建設しました。それ以来、苫小牧は製紙工場を中心にいろいろな関連産業が発展して、王子製紙の城下町になりました。

苫小牧駅からの散策ルートは、まず駅の南側(海



グランドホテルニュー王子の最上階レストランより苫小牧市街を望む。中央奥に入港してきたフェリー

側)に広がる王子町の王子製紙工場を右手に眺めながら苫小牧市役所前を通り、緑豊かな市民文化公園(出光カルチャーパーク)の広々とした庭園の中にある苫小牧市美術博物館へ。学芸員の佐藤麻莉さんに館内を案内していただき、そのあとは港公園を目指します。港では入出港する船を間近に望むことができる港公園へ。それから街の中心部に戻り、開店 104 年の歴史を持つ第一洋食店で昼食をとり、苫小牧駅(地図①)から札幌に戻ります。

【市民文化公園(出光カルチャーパーク)】



市役所にかけられた開港 60 周年を祝う垂れ幕

さて、苫小牧駅を出て、王子総合病院、グランドホテルニュー王子を眺めながら苫小牧市役所(地図②)を目指しました。市役所には「開港 60 周年」の垂れ幕が下がっていました。その前を通り過ぎ、国道 36 号に沿って「市民文化公園(出光カルチャー

パーク)」へ(地図③)。この公園は苫小牧市が昭和 48 年(1973)に「市民の森」として整備しました。水と緑と太陽をテーマに四季を通して、文化、レクリエーション、健康づくりの場として計画され、豊かな緑の中に、図書館、美術博物館、サンガーデン(植物園)などの社会教育施設が配置されています。平成 28 年(2016)3 月 31 日に苫小牧市は出光興産株式会社とネーミングライツ契約を結び、同年 4 月 1 日以降、同公園の愛称は「出光カルチャーパーク」となりました。池をめぐり遊水路に沿って人工滝や噴水を眺め、新緑に囲まれた彫刻の道をゆっくり散策すると、静かな安らぎの時間が流れていきます。

公園の奥に、木々に囲まれた「苫小牧市美術博物館」が建っています(地図④)。愛称は「あみゅー」。アートとミュージアムの融合を目指す美術博物館にぴったりの名称です。正面の入り口に入って受付に佐藤麻莉さんへの取次をお願いすると、なんと館内アナウンスで呼び出してくれました。

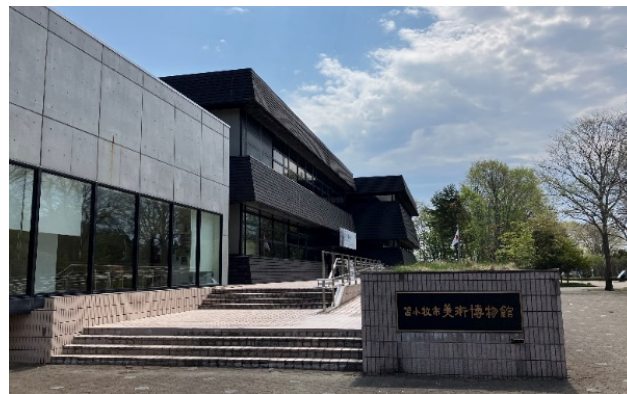
佐藤さんは、札幌市出身。ご専門は近世史で、幕末に蝦夷地が幕府直轄地になったときに、薬草を



新緑に包まれた出光カルチャーパーク(上・下)



苫小牧市美術博物館「あみゅー」(上・下)





教科書にも掲載されたお気に入りの
マンモス象と学芸員の佐藤麻莉さん

調査するために幕府から派遣された採集使^{さいしやくし}を大学の研究テーマにされたそうです。小さい頃から図鑑を眺め博物館に行くのが楽しみだったとのこと。仕事は学芸員としての史料の調査・研究のみならず、大工仕事など多岐にわたるそうです。大変

そうですが、好きな道を職業にされた充実感が伝わってきます。そのあと館内を案内していただきました。

博物館の常設展示では、旧石器時代から現代までの北海道の歴史や自然環境の変化が分かりやすく展示されています。いろいろな大きさや形のアンモナイトをはじめ珍しい化石の標本が展示・収納されています。このコーナーでは収納された化石を引き出して見ることができ、子供たちに人気のようです。アイヌ民族の衣装や約 1 万年の地層の剥ぎ取り模型など展示の目玉はたくさんありますが、佐藤さんのイチオシは、アイヌが使っていた 600 年以上前の木で作られた 5 そうの丸木舟。3 そうは河川用のチップで、2 そうは海に乗り出す板つづり舟(イタオマチブ)です。昭和 41 年(1966)に沼ノ端にある勇払川から発掘されたそうです。

常設展示の後には、企画展を見学しました。現在は、



奇跡的に発見された 600 年以上前のアイヌの丸木舟
(苫小牧市美術博物館蔵)

美術博物館が所蔵絵画を紹介する企画展が開かれていました。入り口にある「原風景：勇払原野と樽前山」のコーナーでは、苫小牧ゆかりの遠藤ミマン(1913-2004)や鹿毛正三(1923-2002)などの大きな絵が迎えてくれます。奥には「港湾と都市の景観」のコーナーもあり、新井康須雄^{やすお}(1934-2010)、福井正治(1931-1989)、横山順一郎(1931-2017)などが描いた工業都市苫小牧の風景画を見ることができます。過ぎし日の苫小牧の活動の息遣いが伝わってきます。

【港公園】

美術鑑賞の後、「港公園」へ向かいました。博物館からしばらく歩くと、広い「王子製紙のチップヤード」が見えてきます(地図⑤)。チップヤードを過ぎると、東屋が建つ小さな「港公園」に着きます(地図⑥)。その入口近くの低い盛土の上に 2 つの彫刻が建っています。港の建設に貢献した篠田弘作代議士の胸像と港の工事で亡くなられた人々を悼んで建てられた彫刻です。

昭和 24 年(1949)、苫小牧港が港湾統計法による調査指定港湾として官報に登載され、港湾法によって港湾区域が設定されます。港の建設を熱望して戦前から陳情を繰り返してきた地元関係者にとってはまさに青天の霹靂^{へきれき}でした。すぐさま「苫小牧港築設期成同盟会」を発足させ猛烈な予算獲得活動を展開します。その時に本丸である運輸省(現国土交通省)港湾局に再三働きかけたのが、苫小牧出身の国会議員・篠田弘作です。そして翌年度の港湾



港公園にある篠田弘作の胸像

調査のための国費を獲得することに成功します。それを足掛かりに、昭和 26 年（1951）には我が国初の近代掘込港湾の着工にこぎつけます。官報に苫小牧港の名前が登載されて 2 年で着工にこぎつける、まさに電光石火の早業でした。その後、幾多の紆余曲折がありましたが、苫小牧港は今や、北海道全ての港が取り扱う貨物量の半分以上を占め、国内貿易では全国一の貨物量を誇ります。

また、市民の憩いの場所として整備されたキラキラ公園は、港の活動を眺める家族連れやみなとコンサートなどのイベントで賑わいます。このような港の繁栄の陰に、建設工事に命を捧げた方々の存在があったことを苫小牧市民は忘れないでしょう。歌碑には犠牲者の冥福を祈り、「わがいのち働くものぞ なげきなく 太平洋の砂にうずめて」と刻まれています。盛土を登ると彫刻の周囲は一面にたんぽぽの花が咲き乱れ微風にそよいでいます。あたたかも港の建設に命をささげた多くの人々の魂を慰めているようでした。

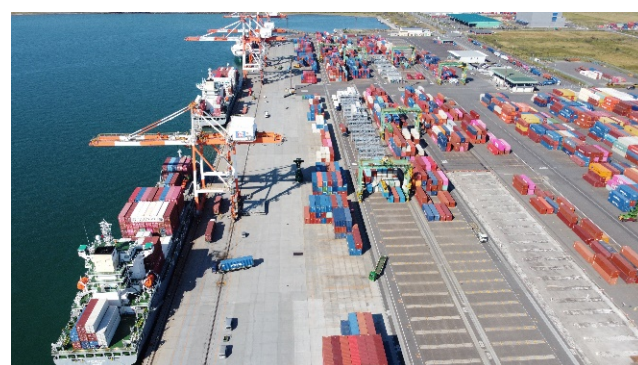
そこから港を眺めながら漁港区に向かいました。大変穏やかな日で水面がきらきら揺れる散歩日和でした。漁港区には海鮮食堂が軒を連ね、休日や昼時は観光客で賑わいます。港湾活動だけでなく漁業も活発で、苫小牧漁業協同組合は将来の漁業発展のための積極的な取り組みを展開しており、ホッキガイをはじめ魚介類の品質を保ったまま輸出するため、衛生管理を徹底させ岸壁を覆う上屋の建設が進んでいます。



岸壁を屋根で覆い衛生管理を進める漁港区の風景



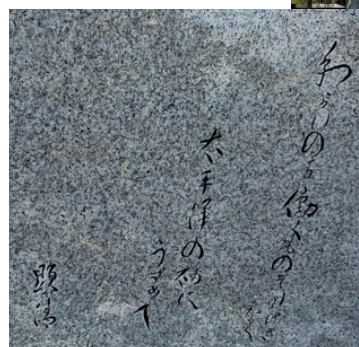
キラキラ公園に市民が集まり、船を眺めながらみなとコンサートを楽しむ(苫小牧港湾事務所提供)



東港区のコンテナターミナル(苫小牧港湾事務所提供)



港公園にある慰霊の彫刻



台座の歌碑「わがいのち 働くものぞ なげきなく 太平洋の砂にうずめて」

【第一洋食店】

そこから市街に戻り、最後に「第一洋食店」で遅い昼食です(地図⑦)。店内は年配の方々が昼食をとっており、クラシックの音楽が流れる落ち着いた雰囲気に包まれていました。ランチには店自慢のサーロインステーキをいただきました。



第一洋食店の外観(上)と店内(下)



ランチのサーロインステーキ

洋食店を出ると駅まで続くいろいろなストリートファニチャーが、長い散策の疲れを癒してくれました。



波をイメージした縁石に市民の心意気を感じます



小さな足型と誕生日が刻印された歩道の御影石



スケートの町、苦小牧の少女像が見送ってくれました



幼い日の温かな記憶が蘇ります

(関口信一郎 記)

【今回の散策ルート】



【今回の散策ルート】

地図③

市民文化公園(出光カルチャーパーク)

苫小牧市末広町3丁目1

電話 0144-32-6500(公園整備係)

駐車場 3カ所 212 台駐車可能

地図④

苫小牧市美術博物館

苫小牧市末広町3丁目9-7

電話 0144-35-2550

開館時間 9:30～17:00

定休日 毎週月曜日(祝日は翌日休)、
年末年始

料金 一般 300 円 大・高校生 200 円

地図⑦

第一洋食店

苫小牧市錦町1丁目6-21

電話 0144-34-7337

営業時間 11:30～15:00(月曜～金曜)

12:00～15:00(土・日・祝日)

17:00～21:00

定休日 不定休

<連絡先>

NP0 法人 北海道みなとの文化振興機構

札幌市北区北11条西2丁目2-17 セントラル札幌北ビル5階

e-mail アドレス: mail@minato_bunka.info